

榊原 知美

SAKAKIBARA, Tomomi



【共同研究】

■ 国際教育センター共同研究プロジェクト「多文化的背景をもつ子どもへの学習支援に関する発達心理学的研究—文脈間の連続性／非連続性に注目して—」（座長：榊原知美）

多文化的背景をもつ子どもの学習上の困難の構造を、算数・理科学習に焦点をあて、発達心理学的な視点から解明することを試みた。平成26年度は、本プロジェクトの成果に基づき以下の書籍をミネルヴァ書房より出版した。

『算数・理科を学ぶ子どもの発達心理学—文化・認知・学習』
榊原知美（編著）ミネルヴァ書房 2014

- 第I部 子どもの学びを読み解く視点—発達・学習研究の現在
- 第1章 知識獲得としての学習（多鹿秀継）
- 第2章 文化的実践としての学習（高木光太郎）
- 第II部 子どもはどのように算数・理科を学ぶのか—文化間移動を視野に入れて
- 第3章 社会・文化の中で育まれる乳幼児の数概念（榊原知美）
- 第4章 遊びが生み出す幼児の数量理解（山名裕子）
- 第5章 小学生の算数概念の発達とその支援（岡本ゆかり）
- 第6章 算数・数学に関する学習観・指導観・教育観（瀬尾美紀子）
- 第7章 幼児の理学的概念の発達（布施光代）
- 第8章 理学的概念の変化を支援する学習活動（伊藤貴昭）
- 第9章 理科学習の日米比較—学習環境と教育への取り組み（高垣マユミ）
- 第III部 文化間移動をする子どものための授業実践
- 第10章 多文化的背景をもつ小学生のための算数・理科授業（市川昭彦・高木光太郎）

■ 国際教育センター共同研究プロジェクト「文化間移動をする子どもの発達・学習に関する心理学的研究—就学後の学力を支える多文化保育のあり方を探る」（座長：榊原知美）

本プロジェクトでは、多文化的背景をもつ子どもに対する有効な支援のあり方を教育実践の現場に適用可能な形で提案することを目指す。具体的には、就学前施設における実践に焦点を当てる。近年の研究から、多文化的背景をもつ子どもが経験する学習上の困難は、就学前に身に付けておくべき知識の不足が一因であることが示唆されている。本プロジェクトでは、こうした子どもの発達・学習を促す文化的多様性を考慮した保育のあり方について、心理学および保育実践の視点から検討する。

初年度である平成26年度は、多文化保育関係者からの聞き取りなどにもとづき、本プロジェクトの基本的な研究枠組みを構築した。さらに調査対象の選定および予備調査を行った。

■ 国立教育政策研究所プロジェクト研究「子どもたちの論理的な思考力の育成に関わる調査研究」（研究代表：大金伸光）

【科研費等の研究】

■ 平成24-26年度 科研費 基盤研究 (C) 「文化的実践としての保育活動への参加を通じた幼児の数量発達に関する研究」（研究代表：榊原知美）

幼児が文化的実践としての数量活動に参加することで、生得的な数量能力を基盤としつつ、より高度な数量能力を発達させる過程を明らかにすることを目的とした研究である。本研究で

は特に、幼児が参加する文化的実践としての保育活動に注目し、日本の保育に特徴的にみられる保育者による数量支援の構造と幼児の数量発達の関係の解明を目指した。具体的には、1.保育者による「埋め込み型」の促進的支援に含まれる数量要素の特徴と幼児の数量能力の発達過程の関係、2.幼児の年齢や数量能力に応じた保育者による支援の調整のあり方、という2 側面に注目して検討した。

【研究業績】

1.著書（編著）

■ 榊原知美（編著）（2014）算数・理科を学ぶ子どもの発達心理学—文化・認知・学習— ミネルヴァ書房 全219頁

2.論文

■ 渡辺忠温・片成男・山本登志哉・榊原知美（2015）大学生の他者理解に関する日中比較研究—所有をめぐる葛藤の文化性を読み解く—。国際教育評論12, 19-34.

■ 榊原知美（2014）5歳児の数量理解に対する保育者の援助：幼稚園での自然観察にもとづく検討。保育学研究, 52（1）, 19-30.

■ Sakakibara, T. (2014). Mathematics learning and teaching in Japanese preschool: providing appropriate foundations for an elementary schooler's mathematics learning. International Journal of Educational Studies in Mathematics, 1（1）, 16-26.

3.学会発表等

■ Sakakibara, T & Pian, C (2014) Intercultural understanding through dialogue between Japanese and Chinese students. The 4th Congress of the International Society for Cultural and Activity Research, Sydney, Australia

【学会活動】

■ 日本心理学会

■ 日本発達心理学会

■ 日本教育心理学会

■ 日本保育学会

■ International Journal of Educational Studies in Mathematics (Scientific Committee)

【社会活動】

■ 東京学芸大学附属幼稚園竹早園舎の地域公開研究会において「子どもは数をどう学ぶのか—保育者の援助と文化の視点から—」というタイトルで講演を行った。

■ 第8回国際教育センターフォーラム「多言語・多文化環境で育つ子どもの健全な言語発達のために—就学前・就学初期に大人ができること・すべきことはなにか—」を運営した。

【教育活動】

■ 「異文化間心理学」「国際教育臨床」「国際教育演習B」「国際教育特別研究」東京学芸大学教育学部

■ 「文化心理学演習I」「文化心理学演習II」東京学芸大学大学院教育学研究科

■ 「教育学特殊研究（認知発達論）」非常勤講師 立教大学大学院文学部研究科

■ 「学習学研究法I」非常勤講師 青山学院大学大学院社会情報学研究科

■ その他、本学教育学部の国際教育選修の担当として、卒業論文の指導を行った。大学院では、教育学研究科の学校心理専攻の担当として、学生に対する指導、助言等を随時行った。